

最優秀賞

共存できる社会をつくるために

群馬県立吾妻高等学校 三年 宮崎 真由

超高齢社会の日本。これからも増え続けていく高齢者。私たち若い世代が行うべきこととは。

私は、福祉科のある学校に通い、毎日勉強に励んでいます。その中で多くの実習があり、たくさんの高齢者の方とふれ合いました。

施設での実習では利用者の方とコミュニケーションをとったり、介助を行ったりしました。何回か実習を行っている施設だったので一日の流れや介助の方法なども把握し、やっと介助が行えるようになりました。

そして迎えた三週間実習。今までの実習よりも期間が長く少し不安な気持ちもありましたが、自分のできることは全力で頑張ろうと思いい実習を行いました。

実習を始めてから二週間目。介助も慣れてきて、利用者の方とコミュニケーションを多くとりながら介助を行っている時、利用者の方が私に、施設での生活に対する不満、自分が自分の力で動けないことに対しての悔しさを話し始めました。その内容は、毎日楽しいことがなくてつまらない、歩けるのにずっと車椅子で動くのは嫌だというようなことでした。私はこの話を聞いてうなづくことしかできませんでした。それと同時にとても情けない気持ちになりました。しかし、この出来事がきっかけで、私の考えは今のままではいけないと感じました。

介護というのは、ただ利用者の方を介助するのではなく、利用者

の方一人ひとりを理解し、残存機能を活用した、その人らしい生活を送っていただけるように支援をしていくことだと思いました。また、施設に入所しているからこそ、利用者の方が趣味や楽しみを見つけ、それを生きがいとして生活していけるようにすることが必要だと感じました。

施設に入所している方に限らず、社会全体としても、近所に一人暮らしの高齢者の方がいたら毎日コミュニケーションをとったり、地域ごとに高齢者の方と若い人たちのふれ合う環境を作っていくことが大切だと思います。

これからもっと高齢者が増えていくと思いますが、それを嫌だと思うのではなく、高齢者と若い世代が支え合い、楽しんで生活をしていくことが大切だと思います。

私は将来、介護福祉士になりたいと考えています。施設に入所している方が、毎日楽しく過ごしていただけるような支援が行えるように高校で様々なことを学び、活かしていきたいです。また、社会の一員として、若い世代の一員として、高齢者の方が過ごしやすい環境を作れるように周りにいる若い人たちと手を組み頑張っていきたいと思えます。そしてこれからもみんなが素晴らしい社会を作っていきたいです。